

産業建設委員会

【議案第1号】令和7年度鯖江市一般会計予算

900万円

さばえ街づくり協議会による商店街のにぎわい創出とは？

説明 鯖江地区の商店会が中心となって発足したさばえ街づくり協議会が作成する成長計画と、その計画に基づいた事業に対する支援である。県からの補助金を財源とし、令和7年度・8年度の2年間にわたって取り組んでいく。

問 商店街のにぎわい創出のためにはこれまでも多くの予算が投じられており、イベントの開催によって人が集まることはあったが、それらは一過性的のにぎわいであり、その先につながっていないように感じる。この事業は新規事業だが、過去の成果を踏まえ、どのように展開するのか。

答 事業主体となる さばえ街づくり協議会では、10年後・20年後を見据えた中心市街地の未来像を地元主導で描くとともに、2年間の各種実証事業を通じて、持続的ににぎわい創出につながる環境を整備していきたいと考えている。

意見 一時的なにぎわいをつくる事業を繰り返すのではなく、過去の成果を総括し、次につながるような事業を展開してほしい。

【議案第1号】令和7年度鯖江市一般会計予算

340万円

鯖江駅周辺で交通社会実験を実施します！



説明 鯖江駅西口広場や東口広場は、令和4年度に策定した鯖江駅東口等整備基本計画を基に整備内容を検討している。現在の駅前における送迎の状況や駐車場の利用状況を見ると、東口の利便性の向上を図り、できるだけ東口を利用してもらうことが必要であると考え、東口の利用を促すため、1週間ずつ2段階に分けた社会実験の実施を検討している。また、送迎に関するアンケート調査も実施し、駅周辺の交通について検証したいと考えている。

【第1段階】 駅東第1駐車場から第3駐車場を1時間無料とし、第1駐車場の一部に送迎用ロータリーを設置し、交通誘導員を配置して誘導することで、利用状況がどのように変化するかを調査する。

【第2段階】 第1段階の態勢を継続しながら、駅前道路脇にバリケードを設置し、駐車できない状況にした上で、交通誘導員によって駅前駐車場や駅東駐車場へ誘導することで、利用状況がどのように変化するかを調査する。

問 鯖江駅東口の整備計画は立ち止まっているが、将来的にはどのようにしたいと考えてこの社会実験の方向性を決定したのか。

答 令和4年度に策定した基本計画では、東口の第1駐車場にロータリーを設置し、その中に駐車場を整備して1時間無料とするような計画であり、おおむねその計画どおりと考えている。送迎の車をどれだけ東口へ誘導できるかが重要であるが、この社会実験やアンケート調査によって問題点を洗い出し、駅周辺の交通の在り方について検討していきたい。



鯖江市職員ドローンパイロット育成事業について

説明 令和7年度予算の重点的施策である支え手づくり予算として、災害発生時などの情報収集のため、ドローン操縦に必要な免許取得の費用である。

問 この予算で免許を取得できる職員の人数は。また、職員が免許を取得する目的は。

答 2名分の予算を見込んでいる。現在、一般的な小型ドローンを操縦する場合免許は必要とされていないが、令和4年にドローン操縦の国家資格が創設され、事故なく安全に業務に当たるためには、職員の免許取得が必要であると考えている。山や川で災害が起こった際などに、いち早く現状を把握するためにドローンを活用していきたい。

問 安全性や正確性、最新の技術を考慮し、民間事業者を活用することも検討してはどうか。

答 民間事業者の技術が優れていることは承知しているが、職員が目で確認することも重要であると考えている。ドローンを使えば、河川の土砂の堆積状況を上空から確認することができるなど、職員が行うべき通常の維持管理にも有効である。また、山の上部での倒木や落石など、人が入りにくい場所で職員が現場を確認する必要がある場合に、ドローンを活用することで、ある程度状況を確認することができる。民間事業者に委託すべき業務は業務委託し、職員が行うべき業務は職員が適切に実施できるよう育成に努めたい。



道路除雪費の算出根拠と除雪出動の目安は？

説明 2月4日からの今季最強寒波に伴う道路除雪の対応により除雪費用が不足することから、緊急的に2月7日に市長専決処分により道路除雪費8,000万円の増額予算措置を講じた。その後、さらに2月18日～24日頃までの最強寒波の予報により、市民生活の安心・安全を守るためにさらなる道路除雪費の増額が必要となった。

問 除雪費の概算は何を根拠に算出し、予算として計上しているのか。

答 当初予算に除雪出動4回分程度の予算を計上している。寒波の襲来や雪の降り方、排雪の状況によって経費が変わってくるため、福井地方気象台の今後の予報などを参考に、先を見据えた予算措置が必要であると考え対応している。

問 除雪出動の目安として積雪15センチメートルという基準があるが、積雪量の測定や除雪出動の判断はどのようにしているのか。

答 天気予報を確認し、深夜にパトロールをしながら各地で道路の積雪深を観測している。通勤時間となる午前6時～7時頃までにあとどれくらい積もるかを想定し、パトロール時には15センチメートルに達していない場合でも臨機応変に判断している。市民生活に混乱がないよう、数字にこだわらずに早めの対応を心がけたい。

意見 道路の融雪装置が故障していると、除雪で対応することになり負担がかかってしまう。点検で故障が判明した際、市道と県道で管理が分かれていることは理解しているが、故障した状態で雪が降ると混乱につながってしまう。早期に対応するためには、市と県の間での情報共有や地元の関係者への情報伝達が重要であり、しっかりと連携強化して取り組んでほしい。

